東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2006年6月23日

スンナトゥッラー（全体規則）

親愛なるムスリムの皆様。日々の生活の忙しさの中で、私たちが気づいていたとしても、いなかったとしても、社会生活は一定の規則を基にして成り立っています。今日は、この全体規則の基本的特質について簡単に説明したいと思います。

1　まず、全体的規則は、神性のものです。つまり、この規則を守るのは偉大なるアッラーであるということです。クルアーンは、このことを述べる際、スンナトゥッラー（アッラーの慣行）という概念を示しています。誰もこの規則に干渉することはできないのです。不法な性行為が蔓延した社会では、家庭の安定が脅かされ、それに従ってその社会が荒廃していく、ということは、明らかな事実です。不法な性行為が蔓延させることによって、より健全な家庭を形成し、力強い社会を形成することが、誰にできるでしょうか。

2　全体的規則は、広く通用するものです。言い換えるなら、１つの民族にとって有効でありながら、他の民族にとって有効ではない、ということはありえないのです。ルートの一族の滅亡の原因は、他の民族にとっても滅亡の要因となってきたし、これからもそうであるでしょう。

3　全体的規則が変化したり、その状態を変えたりすることはありません。クルアーンは、アッラーの、歴史における振舞いが、不確定なものではないこと、どのような状況でどのように振舞われるかをご自身に、そして人間に約束しておられることを明らかにしています。クルアーンでは次のように述べられているのです。「地上で高慢にふるまい、悪事の策謀ばかりをしていた。だが悪事の策謀は、その当人に振りかかるだけである。だからかれらは昔の人々の（滅亡した）慣行を待つ外はないであろう。それであなたは、アッラーの慣行には代替がないことが分るであろう。また変更も決してないことも分るであろう。」（創造者章第４３節）

4　全体的規則の存在は、困難さを伴ったり、人間の自由が奪われたり、ということを意味するものではありません。アッラーがお慶びになられない生き方を取り入れない社会は、そういった生き方から意志を持って遠ざかることができ、滅亡から逃れるのです。一方、アッラーの慣行が実行される時や早さも、人々の自由意志に結びついたものです。例えば、嘘が横行し、信頼が失われ、また権利が奪われている社会の滅亡は、より早くもたらされるでしょう。

5　この慣行が実行に移される舞台は、その社会です。簡単な例で表現するなら、船が沈む時には、罪人も、罪のない人も共に溺れてしまう、ということです。だから、次の章句を、常にその集団における優先事項として捉える必要があるのです。

「われは警告者を（前もって）遣わさずに如何なるなる町も滅ぼさなかった。（また）気付かせ（た後で）なければ。われは決して不当なことを行うものではない。」（詩人たち章第２０８－２０９節）「それは、アッラーがある民に与えられた恩恵は、かれらが自分を（悪く）変えない限り、決してこれを変えないからである。本当にアッラーは全聴にして全知である。」（戦利品章第５３節）

また、聖職者が承認されず、社会と一体であること、模範的な人間になること、人々に常に善や美を勧めること、なども、ここでの英知に含まれているものと思われます。